

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2026.2.16-22

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（1～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

14:1 そのころ、領主ヘロデはイエスのうわさを聞いて、
14:2 家来たちに言った。「あれはバプテスマのヨハネだ。彼が死人の中からよみがえったのだ。だから、奇跡を行う力が彼のうちに働いているのだ。」
14:3 実は、以前のヘロデは、自分の兄弟ピリポの妻ヘロディアのことでヨハネを捕らえて縛り、牢に入れていた。
14:4 ヨハネが彼に、「あなたが彼女を自分のものにすることは律法にかなっていない」と言い続けたからであった。
14:5 ヘロデはヨハネを殺したいと思ったが、民衆を恐れた。彼らがヨハネを預言者と認めていたからであった。
14:6 ところが、ヘロデの誕生祝いがあり、ヘロディアの娘が皆の前で踊りを踊ってヘロデを喜ばせた。
14:7 それで彼は娘に誓い、求める物は何でも与えると約束した。
14:8 すると、娘は母親にそそのかされて、「今ここで、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい」と言った。
14:9 王は心を痛めたが、自分が誓ったことであり、列席の人たちの手前もあって、与えるように命じ、
14:10 人を遣わして、牢の中でヨハネの首をはねさせた。
14:11 その首は盆に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って行った。
14:12 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て遺体を引き取り、葬った。そして、イエ

スのところに行って報告した。

ヨハネは向こう見ずな正義感によって、ヘロデを非難したわけではありません。主の道を備えるという、自分の生涯の使命を力強く生きたのです。その結果、悪によって殺されましたから、ここだけ読むを悪の力が勝ってしまったかのように思えますが、その後の歴史を見ると違います。

実はこの後にヘロデは不道德を犯してまでも、兄弟の妻であるヘロデヤと結婚しましたが、その後ヘロデヤの野心にそそのかされて皇帝に上訴に行き、その結果は謀反人と見られて流刑の地で死んだのです。この世の権力がいかに強くても、神に反しては破滅の道をたどるしかないのです。

一方ヨハネはその使命を果たし、主イエスから大いなるものと称号をいただき、当然ながらヘロデとは違って、すばらしい栄光の生涯を全うしました。ここに神の国に生きる者の勝利があります。

私たちは命の危険までではないでしょうが、何かを恐れながら信仰を貫けない場合があるかもしれません。そのときは、本当の勝利は誰の上に輝くのか、全能にして永遠の神を見上げて考えるようにしましょう。小さな勇気が信仰によって与えられるでしょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 17日 火曜

マタイ



14:13 それを聞くと、イエスは舟でそこを去り、自分だけで寂しいところに行かれた。群衆はそれを聞き、町々から歩いてイエスの後を追った。

14:14 イエスは舟から上がり、大勢の群衆をご覧になった。そして彼らを深くあわれんで、彼らの中の病人たちを癒やされた。

14:15 夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここは人里離れたところですし、時刻ももう遅くなっています。村に行って自分たちで食べ物を買うことができるように、群衆を解散させてください。」

14:16 しかし、イエスは言われた。「彼らが行く必要はありません。あなたがたがあの人たちに食べる物をあげなさい。」

14:17 弟子たちは言った。「ここには五つのパンと二匹の魚しかありません。」

14:18 するとイエスは「それを、ここに持って来なさい」と言われた。

14:19 そして、群衆に草の上に座るように命じられた。それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

14:20 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二のかごがいっぱいになった。

14:21 食べた者は、女と子どもを除いて男五千人ほどであった。

モーセの時代には、天からマナが与えられて、人々は生きることができました。今はイエス様が生きる糧を与えてくださるということです。それは「余ったパンきれをめ」ても十二のかごを満たすほ

どでした。つまり全人類の救い（永遠のいのち）が成就した後の余りでさえ、イスラエルの十二の部族を満たすことができるという意味にマタイは理解したのです。

そしてそのイエス様の救いは、肉の糧ではなく永遠のいのちであり、ご自身がいのちのパンとなられたのです。私たちはこのイエス様を信じて、内に受け入れ（食して）、永遠のいのちをいただきました。

このような救いは、弟子たちがその奉仕によって配ったように、私たち救われた者に託されています。そしてその信仰は、五つのパンと二匹の魚を差し出したような、与える信仰によって始まるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



18日 水曜

マタイ



14:22 それからすぐに、イエスは弟子たちを舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸に向かわせ、その間に群衆を解散させられた。
14:23 群衆を解散させてから、イエスは祈るために一人で山に登られた。夕方になっても一人でそこにおられた。

14:24 舟はすでに陸から何スタディオンも離れていて、向かい風だったので波に悩まされていた。

14:25 夜明けが近づいたころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに来られた。

14:26 イエスが湖の上を歩いておられるのを見た弟子たちは「あれは幽霊だ」と言っておびえ、恐ろしさのあまり叫んだ。

14:27 イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない」と言われた。

14:28 するとペテロが答えて、「主よ。あなたでしたら、私に命じて、水の上を歩いてあなたのところに行かせてください」と言った。

14:29 イエスは「来なさい」と言われた。そこでペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスの方に行った。

14:30 ところが強風を見て怖くなり、沈みかけたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。

14:31 イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。」

14:32 そして二人が舟に乗り込むと、風はやんだ。

14:33 舟の中にいた弟子たちは「まことに、あなたは神の子です」と言って、イエスを礼

拝した。

14:34 それから彼らは湖を渡り、ゲネサレの地に着いた。

14:35 その地の人々はイエスだと気がついて、周辺の地域にくまなく知らせた。そこで人々は病人をみなイエスのもとに連れて来て、

14:36 せめて、衣の房にでもさわらせてやってください、とイエスに懇願した。そして、さわった人たちはみな癒やされた。

イエス様と弟子たちの思い出はたくさんあったでしょうが、マタイはこの出来事を選ぶことを選択しました。そこには不思議以上の信仰的の意味があって、弟子たちが大いに教えられたからです。

イエス様は弟子たちを愛しておられましたが、時にはひとりになって、御父との交わり、すなわち祈るためにお1人になられたこと、イエス様がいなければ弟子たちは、「恐ろしさのあまり、叫んだ」ほど気弱な者たちであったことなどがそうです。そしてそれら以上に、この湖上での出来事は印象深いものでした。

弟子たちはイエス様がそばにいるのに気づかずに、幽霊と勘違いしてしまいました。私たちも同じように、ともにいてくださるイエス様に気づかないままではなく、交わる者となりましょう。

またペテロのように、イエス様ならそれを確信したいと思うこともあります。イエス様はそれをお許しになりますが、ペテロは風を見て怖くなりました。私たちも、主を見るのではなく、問題を見てしまうことで、むしろ沈んでしまうことがあるのです。問題は決定的ではなく、主との関係が決定的なのです。

問題解決はさておいても、主イエスをしっかりと見上げましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 19日 木曜

マタイ



15:1 そのころ、パリサイ人たちや律法学者たちが、エルサレムからイエスのところに来て言った。
15:2 「なぜ、あなたの弟子たちは長老たちの言い伝えを破るのですか。パンを食べるとき、手を洗っていません。」
15:3 そこでイエスは彼らに答えられた。「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い伝えのために神の戒めを破るのですか。
15:4 神は『父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は、必ず殺されなければならない』と言われました。
15:5 それなのに、あなたがたは言っています。『だれでも父または母に向かって、私からあなたに差し上げるはずの物は神へのささげ物になります、と言う人は、
15:6 その物をもって父を敬ってはならない』と。こうしてあなたがたは、自分たちの言い伝えのために神のこトばを無にしていましました。
15:7 偽善者たちよ、イザヤはあなたがたについて見事に預言しています。
15:8 『この民は口先でわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。
15:9 彼らがわたしを礼拝しても、むなしい。人間の命令を、教えとして教えるのだから。』
15:10 イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。
15:11 口に入る物は人を汚しません。口から出るもの、それが人を汚すのです。」
15:12 そのとき、弟子たちが近寄って来てイエスに言った。「パリサイ人たちがおこトば

を聞いて腹を立てたのをご存じですか。」
15:13 イエスは答えられた。「わたしの天の父が植えなかった木は、すべて根こそぎにされます。
15:14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を案内する盲人です。もし盲人が盲人を案内すれば、二人とも穴に落ちます。」
15:15 そこでペテロがイエスに答えた。「私たちに、そのたとえを説明してください。」
15:16 イエスは言われた。「あなたがたも、まだ分らないのですか。
15:17 口に入る物はみな、腹に入り、排泄されて外に出されることが分らないのですか。
15:18 しかし、口から出るものは心から出て来ます。それが人を汚すのです。
15:19 悪い考え、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偽証、ののしりは、心から出て来るからです。
15:20 これらのものが人を汚します。しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」

律法を形式的に守って自己義認に陥っていたパリサイ人は、その抜け穴を考えては、都合のよい解釈をしていました。自分を正当化する人は、都合の良い解釈や偏った解釈で、決まりごとを利用するのです。そのようなことをしていないか、吟味しましょう。

イエス様は、何を食べるかなどといった行いによって、人が汚れるのではなく、内側かの罪が人を汚しているのだといわれます。

自分自身の心に汚れや罪がないか、よく考えてみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20日 金曜

マタイ



15:21 イエスはそこを去ってツロとシドンの地方に退かれた。

15:22 すると見よ。その地方のカナン人の女が出て来て、「主よ、ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が悪霊につかれて、ひどく苦しんでいます」と言って叫び続けた。

15:23 しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。弟子たちはみもとに来て、イエスに願った。「あの女を去らせてください。後について来て叫んでいます。」

15:24 イエスは答えられた。「わたしは、イスラエルの家の失われた羊たち以外のところには、遣わされていません。」

15:25 しかし彼女は来て、イエスの前にひれ伏して言った。「主よ、私をお助けください。」

15:26 すると、イエスは答えられた。「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのは良くないことです。」

15:27 しかし、彼女は言った。「主よ、そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパン屑はいただきます。」

15:28 そのとき、イエスは彼女に答えられた。「女の方、あなたの信仰は立派です。あなたが願うとおりにするように。」彼女の娘は、すぐに癒やされた。

イエス様はまず、ユダヤ人に伝道しました。ユダヤ人の信仰の正典である旧約に約束された救い主であることを示すためです。またユダヤ人は自分たち以外、すなわち異邦人はまことの神を知らないという理由で忌み嫌われてました。

このカナン人の女も異邦人でしたから、まだイエス様の伝道対象ではなく、また忌み嫌われていた存在でしたが、すばらしい信仰の持ち主だったのです。

主イエスの力を信じて疑わない強い信仰、断られてもさらに求める積極的な信仰と信頼、そして「小犬でも」という謙遜な信仰です。

私たちもそのような信仰で、主に求め続けましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 土曜

マタイ

15:29 それから、イエスはそこを去ってガラヤ湖のほとりに行かれた。そして山に登り、そこに座っておられた。

15:30 すると大勢の群衆が、足の不自由な人たち、目の見えない人たち、手足の曲がった人たち、口のきけない人たち、そのほか多くの人をみもとに連れて来て、イエスの足もとに置いたので、イエスは彼らを癒やされた。

15:31 群衆は、口のきけない人たちがものを言い、手足の曲がった人たちが治り、足の不自由な人たちが歩き、目の見えない人たちが見えるようになるのを見て驚いた。そしてイスラエルの神をあがめた。

15:32 イエスは弟子たちを呼んで言われた。「かわいそうに、この群衆はすでに三日間わたしとともにいて、食べる物を持っていないのです。空腹のまま帰らせたくはありません。途中で動けなくなるといけないから。」

15:33 弟子たちは言った。「この人里離れたところで、こんなに大勢の人に十分食べさせるほどたくさんのパンを、どこで手に入れることができるでしょう。」

15:34 すると、イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」

15:35 そこで、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。

15:36 そして七つのパンと魚を取り、感謝の祈りをささげてからそれを裂き、弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。

15:37 人々はみな、食べて満腹した。そして



余ったパン切れを集めると、七つのかごがいっぱいになった。

15:38 食べた者は、女と子どもを除いて男四千人であった。

15:39 それから、イエスは群衆を解散させて舟に乗り、マガダン地方に行かれた。

以前のパンの奇蹟は12という数字が強調されており、イスラエルの部族の数を表していました。ここでは7であって、それは完全数を表します。

つまりイエス様が与えてくださるパンは、イスラエルにも十分であり、また全人類にとっても十分であるということです。ここでパンは命の糧であり、イエス様ご自身とまたイエス様が与えてくださる命とを表したものです。

このようにイエス様のみわざには意味があります。私たち自身に起こる出来事には意味がありますし、ましてや祈って与えられた結果には大切な意味と御心がありますから、それをしっかり悟って、正しい道に歩みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



16:1 パリサイ人たちがサドカイ人たちが、イエスを試そうと近づいて来て、天からのしるしを見せてほしいと求めた。

16:2 イエスは彼らに答えられた。「夕方になると、あなたがたは『夕焼けだから晴れる』と言い、

16:3 朝には『朝焼けでどんよりしているから、今日は荒れ模様だ』と言います。空模様を見分けることを知っていながら、時のしるしを見分けることはできないのですか。

16:4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めます。しかし、ヨナのしるしのほかに、しるしは与えられません。」こうしてイエスは彼らを残して去って行かれた。

16:5 さて、向こう岸に渡ったとき、弟子たちはパンを持って来るのを忘れてしまっていた。

16:6 イエスは彼らに言われた。「パリサイ人たちがサドカイ人たちのパン種に、くれぐれも用心しなさい。」

16:7 すると彼らは「私たちがパンを持って来なかったからだ」と言って、自分たちの間で議論を始めた。

16:8 イエスはそれに気がついて言われた。「信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。

16:9 まだ分からないのですか。五つのパンを五千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。

16:10 七つのパンを四千人に分けて何かご集めたか、覚えていないのですか。

16:11 わたしが言ったのはパンのことではないと、どうして分からないのですか。パリサイ人たちとサドカイ人たちのパン種に用心し

なさい。」

16:12 そのとき彼らは、用心するようにとイエスが言われたのはパン種ではなく、パリサイ人たちがサドカイ人たちの教えであることを悟った。

パリサイ人は律法主義者、サドカイ人は復活を信じない現実主義者でした。彼らはイエス様にしるし、すなわち奇蹟を求めて、それが出来なければ批判しようとしたのです。

イエス様は奇蹟を行い力がありませんでしたが、あえてそれをしませんでした。人を驚かせて信じさせても、それは本当の信仰にはならないからです。「ヨナのしるし」、それはヨナが魚の中に飲み込まれた後に現れたように、イエス様はよみに飲み込まれた後に復活するということです。すなわち十字架と復活を信じるのがすべてであり、それ以外の奇蹟はさほど意味がないということです。

十字架と復活こそが、神様の力であり奇蹟です。この大奇蹟を、もっと喜び驚き、そして褒め称えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（気持や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

